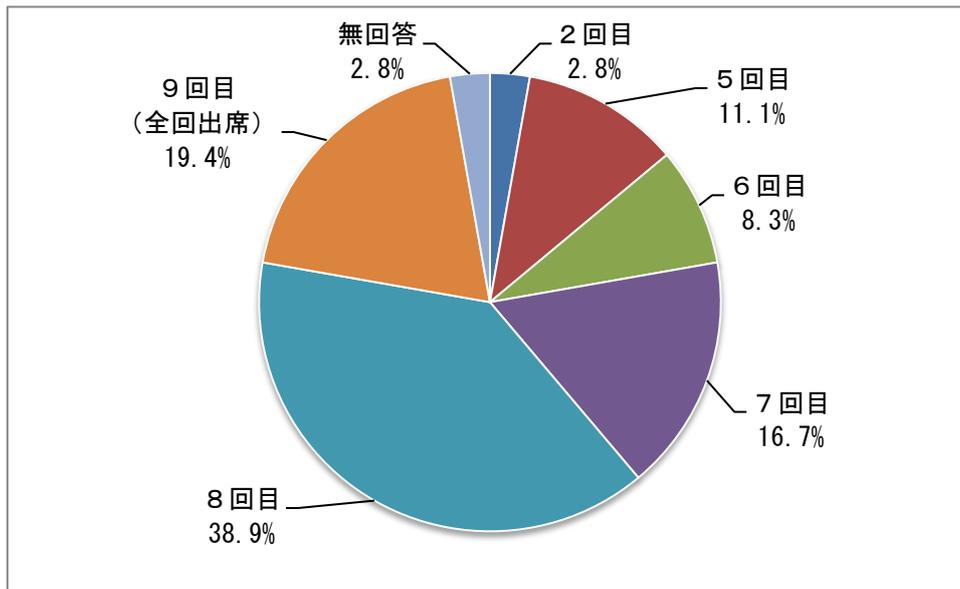


特別回 逗子の未来協議会 アンケート結果

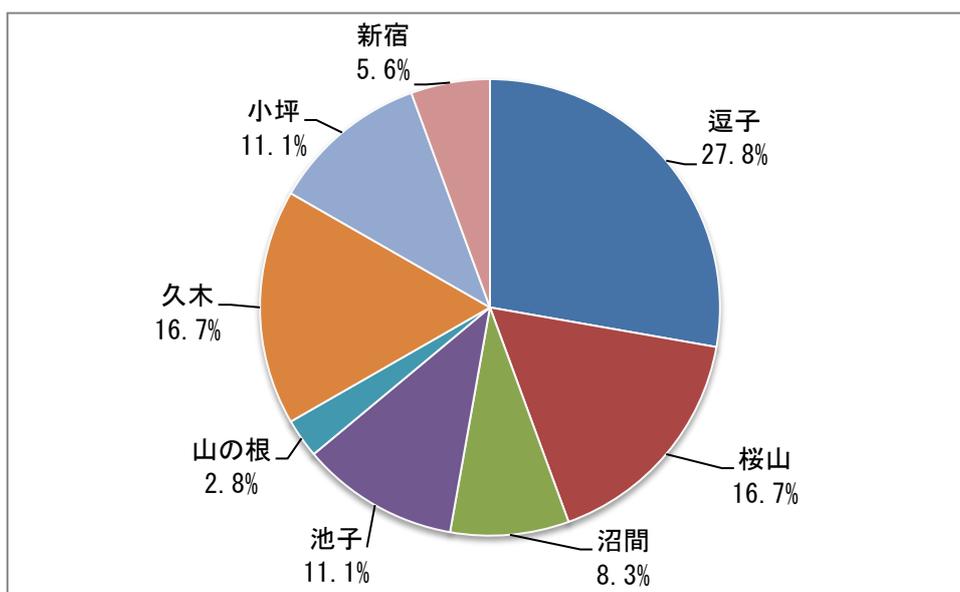
実施日：平成29年3月25日（土）

回収数：36（回収率94.7%）

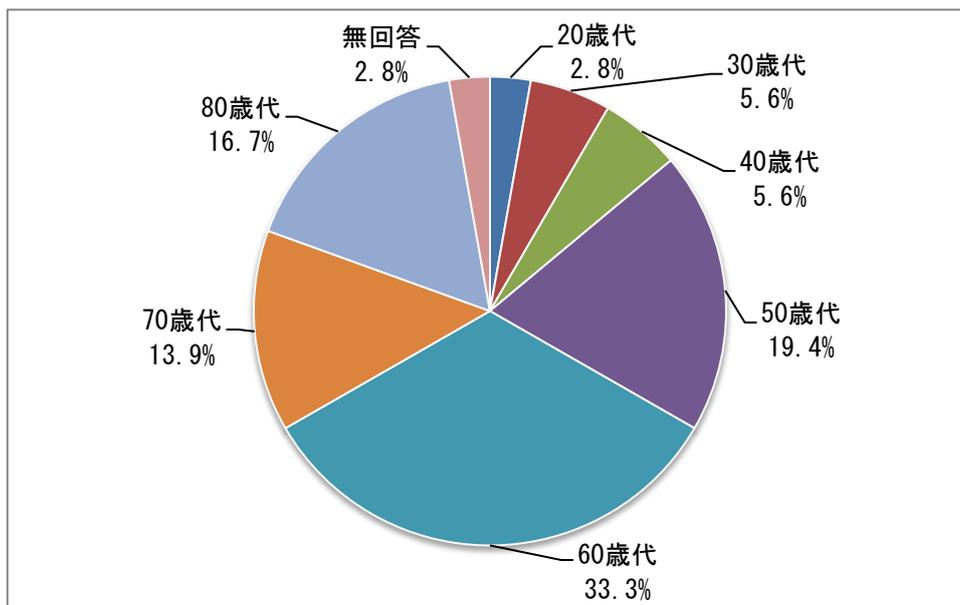
1 特別回参加者の参加状況



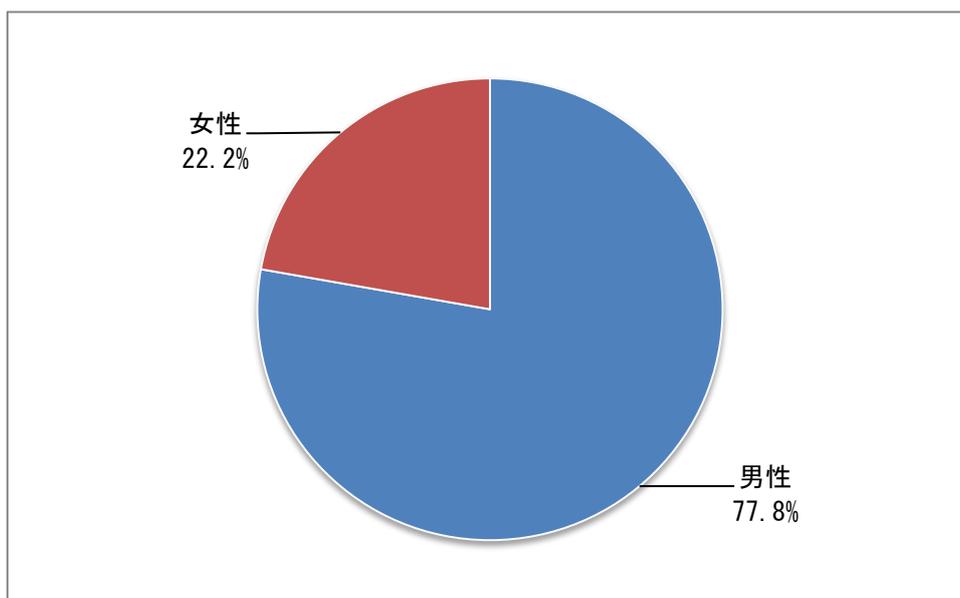
2 特別回参加者の居住地



3 特別回参加者の年代



4 特別回参加者の性別



5 市長と話をし、改めて自治基本条例に対して期待すること

- ◆ 広く市民の意見が行政に届くようなものになってほしいです。
- ◆ 市長だけでなく、議員と話し合う場が必要であると思う。諦めや難しいことを生み出さない内容であること。ぼんやりとした条例としか把握できなかったのも、明確なものにしてほしい。
- ◆ もう一步後ろに戻って、目的や理念を見直し、共感できる市民を増やすことができると期待しています。
- ◆ あえて、ゆるい条例にしてほしいと思いました。住んでいる町は、だらしないのではなく、ゆるい町であってほしいなと思いました。
- ◆ 予算カットの理由として、市民参加を広くしてその上で検討を進めるべきとのことですが、まさに第8回のテーマが“市民参加”であり、又、実体がないまま条例を作っても仕方がないとのことですが、理念を掲げてその上で意味のある自治が始まると思う。今までワークショップで出た中には、実現可能なものも多い。
- ◆ 全くありません。議会でやってください。
- ◆ 議会での話、議員からの話を聞きたいと思いました。(今後の判断材料として)
- ◆ 梯子を外された気がします。
- ◆ 予算の復活をお願いします。
- ◆ 市民参加が続くことを期待します。がんばってください。
- ◆ この条例が施行までたどりつけること。
- ◆ これまでのWSの議論を無駄にしないでほしい。
- ◆ 市民参加を保障するのは行政の役割。市民参加条例に書かれていることで実行していただきたい。行政の役割です。本来解決しなければならない問題が明確になっていない。
- ◆ 理念と現実、解決していきたい個別の課題を情熱をもって取り組みたい。
- ◆ 一度歩みを止め、自治基本条例はなぜ必要かを、まず共通認識をもつ努力が必要と思う。
- ◆ 市長には頑張ってもらいたい。又、3者協力して欲しい。
- ◆ 条例を作ると何がどう良くなるのか。明確な目的をもつことが重要。本協議会が市民の期待を反映できるような人選は？
- ◆ 自治基本条例の意味をもっと知りたいと思います。
- ◆ 市長の熱い思いが伝わった。しかし、事務局は議会対策として何をやってたのか？予算削減ということは事務局の大失態である。協議会の当初から議会・議員との問題を重要視せよとの意見が多かったはず。
- ◆ 議員の人にこの会議に参加(傍聴)していただきたい。
- ◆ 孫のために住みやすい逗子を残すために。
- ◆ 確かにモチベーションは下がりましたが、市長のピンチをチャンスにという言葉聞いて再度一步進めたいです。
- ◆ 自治基本条例に対する期待(だけ)ではないが、本日話に出た中の話で、「市議会のワークショップへの参加」については、「どういう形でそういう議員に参加してもらおうか？」ということについては、効果的になるよう良く工夫してもらいたい。

せっかく、三者（市長・議員・市民）一堂に会して話し合うのだから「市民の気持ちや目線」が良く伝わりあうようにしてほしい（工夫が必要）というのが私の考え方である。

- ◆ 議会民主主義の中で、市民の直接意見を議員が汲み取ることができないことに失望感をもちます。程度の高い議員を育てることから始める必要があります。
- ◆ 市長の前向きな気持ちと、市議の地域に対する勉強不足。自治会・協議会が活発になると市議自体の身分が下がることが第一と考える。
- ◆ 市長の話は、「トーク」と変わらない独演会風である。この姿勢は×である。市民一人一人が大事だ。
- ◆ 本日の市長の本会議、市議会による予算削除の説明と今後の市民の対応決意は良く分かった。直接民主主義と議会制民主主義が一体となって事を進めることが重要。市議会は直接民主主義への寛容な精神が必要。よく世界の動向をわきまえ、小事に拘らず長期的な見地をもってほしい。
- ◆ 今回までの素晴らしい市民参加のWSを通じて、市民の意識は大きく前向きになり、又、市民間の理解や情報のインフォーマルな交換ができたように思えます。ここでもう一度市内の自治的活動の実態を評価し、そこから自治的単位としてどのようなものが適当なのかを市民と行政が協働して考え、例えば小学校単位の自治が本当に妥当なものかどうか、新しい考えを創り出す機会がもてるといいと思います。
- ◆ 自治基本条例はあくまでも行政の姿勢を市民の意見が通る変えられるものに。
- ◆ 8回開催した事項を止めることは市民の本音としてとらえ、中途半端に終わらせず続行を希望します。

6 話し合った「市民巻き込み大作戦」で、あなたが一番よいと思ったアイデア

＜若い人の参加＞

- ◆ 中・高生を巻き込んでいくこと。そのためにまずは学校の先生を巻き込んでいくこと。大学生や高校生にWSの企画に携われるようにして、人生に得になるようなことがあるといいかなと。就活で生きるようなことなど。
- ◆ 若い人へのPR。
- ◆ 若手の意見はやはり貴重と思いました。
- ◆ 10代、20代が参加するには、学校の先生を呼ぶ。
- ◆ 中学校・高校へメンバーが出張して行って参加を呼び掛ける。
- ◆ 年齢をフリーにして参加させる。

＜自治会への働きかけ＞

- ◆ 自治会ネットワーク等を活用して、条例のテーマに即した活動をする。
- ◆ こんなことしていこうよと訴えかける。自治会で話をします。
- ◆ 自治会・町内会から代表を出す。

<参加のハードルを下げる>

- ◆ ゆるい逗子大作戦。時間の制約のない参加方法。あえて「巻き込まない」作戦。
- ◆ 巻き込まれたくないんです。市民が考える、判断できるようになるゆるいアイデア、入り口を考えたい。
- ◆ 会議に出てこなくても意見を言える仕組みを充実させる（SNS など）
- ◆ 40代の方の意見が大変良く「ゆるい逗子」に感心しました。
- ◆ 同席の40代の転入してきた人の発言。逗子の良さ、海山等のハード面からソフト面の良さの強調をし、気軽に暮らせる街。

<周知>

- ◆ 大きな店舗のレジ待ち中に目に入る広告作戦。市内のスーパー、駅。
- ◆ 店舗で協議会のポスターを提示するなど、市民の目につくところで告知する。
- ◆ 市の現状を知らしめることで、巻き込みでなく参加する方法を考える。
- ◆ いつからでも参加できる、ということをやって「広報ずし」にこの会議の予定は必ず、時間的余裕をもって掲載して欲しい。

<仕組み、手法の検討>

- ◆ 市民を広く巻き込む具体的手段、仕組みを本協議会で設計していけばよいのでは？
- ◆ 各年代、各グループに適した方法。
- ◆ 先生に来ていただくということ。
- ◆ 58,000人くらいの人口に対して、多くの住民参加を望んでも100名集まれば満足なのか。もっとも組織的に下から上へ意見集約ができる組織を考えた方がよい。プライベート集会－自治会－協議会－ワークショップ等。
- ◆ 今年実施した冬の津波避難訓練等の、実際生活に必要で今までの準備の効果が如実に実感されるような事項を選んで市民を巻き込んで実施する。
- ◆ 市民と議員と市長・行政との関係を地域自治という行為の中で有機的で実効的なものとする必要があるという意見。因みに“字”ごとに3人の議員、小学校単位ごとに5人ほど、小字2に対して議員1人である。“顔の見える”“日常生活圏”は小字程度の領域になる。歴史的に、字、小字という単位が生きてきた合理的な理由もあるかもしれない。とことんまでの談合の“ムダ”という世界があった。
 - ①自治の実状に対して：特に問題ない
 - ②より良い生活のために、どんな自治があると良いか（目的性の確認）
 - ③その目的をもって自治の内容とは
 - ④その内容を実現するための仕組み、システムは何か
- ◆ 幅広い年代の意見集約の場を設ける。

<議会との関係>

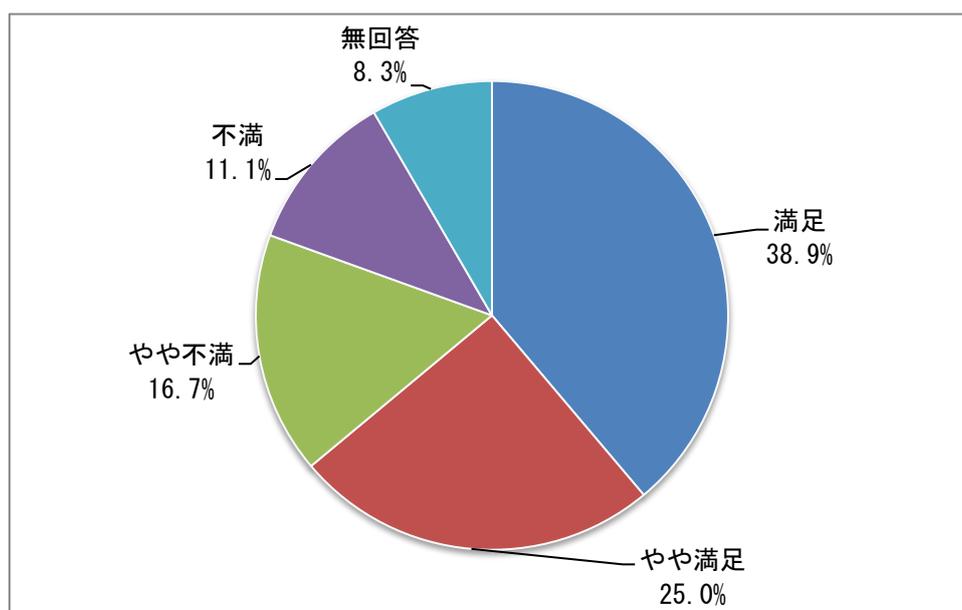
- ◆ 市民の声を議会が聞く姿勢をもつこと。
- ◆ 議員の程度を市民の一人として確認するの必要を感じます。議会の中継はしている

ようですので、今後は見ることにします。このことを知ったことは、この協議会に参加したメリットでした。

<課題の整理>

- ◆ 小学校区単位で住民自治協議会を進めることを考え直すいい機会。
- ◆ 私は、人数を増やせばよいと思うのは違うと思います。まず、どんな市を作るのかとのコンセンサスを得て進めると良いと思う。
- ◆ そもそもどういうメンバーを集めれば成功なのか？
- ◆ 緑を中心に政策を進めるべし。
- ◆ 条例案に対して、現在生活する中で変わらないのが現状である。その中で、市民を巻き込むと言っても市民にそっぽを向かれてしまう。逆に29年度予算が減額されたことを捉えて、「市民トーク」で予算、議会、行政というような大きなテーマでやったらどうか。ピンチをチャンスに逆手をとれ！

7 特別回の感想



【「1. 満足」を選択した理由】

- ◆ 伝えたいことが伝えられた。
- ◆ 世代の違う方と話をする機会は、会社以外ではほとんどないので刺激になりました。
- ◆ 市長の生声、想いが感じられた。
- ◆ 逗子に住んで40年。かつての活気や賑わいがなくなり、さびれた老人町になってしまった理由が良く分かったため。
- ◆ 市長の話が直接聞けたことです。
- ◆ 若い人の意見が良かった。
- ◆ 前へ進む気持ちが強まった。
- ◆ 市長の話を聞いて良かった。※事務当局の反省の弁を聞きたい。

- ◆ 市長の想いを直接聞くことができた。
 - ・ 毎回感じています。
 - 雑学をお持ちの方がマイクをもつととにかく長い！自分の“カラ”の中の知識をここぞとばかりに話し、本題とはまるで違ったトークになる（長～く長～く）。回を増すごとにいやになってくる。参加人数が少なくなる原因の1つではないかと思う。
 - ・ 人選方法も変えた方が良いのではないか。
- ◆ 本日の課題について、一言言いたいことは言わせていただいた。（日頃、痛感していること）
- ◆ 特別委員会で市議会が本会議予算否決の実態を知り得たこと。

【「2. やや満足」を選択した理由】

- ◆ 意外にもみんな気持ちが前を向こうとしているのに、やや驚きとともに嬉しかったです。
- ◆ 意見が反映された。
- ◆ 私たちはどういう資格でここにきているのでしょうか。
- ◆ 正直な意見交換ができた。
- ◆ 市長、来席でしたのもっと時間が欲しかった。
- ◆ 新鮮な意見。
- ◆ 自分の意見だけは言えたので。
- ◆ 一つの課題に対し、もう少し時間を長くしてほしい。
- ◆ 他の意見。7回以上連続参加者の年齢データを。

【「3. やや不満」を選択した理由】

- ◆ 議会の報告に落胆。
- ◆ モチベーションが低下した。
- ◆ 自治基本条例の必要性を突き詰めることが大切。議会否決後としては物足りない。
- ◆ フォーカスが甘くなった。
- ◆ 市民巻き込み大作戦の話し合い、又は報告がほとんどなかった。

【「4. 不満」を選択した理由】

- ◆ なぜ？の気持ちが強く、具体案を考えるに至らなかった。
- ◆ 至らない部分があった？最初から問題はあった。改善できなかったのだから市長の責任。
- ◆ 会そのものより、中途半端に会がしている状態。